

インターバンクの声（2016 年 2 月 4 日）

昨夜の海外市場のドル円は、1 月 26 日に付けた 1 1 7 円 6 0 銭台のドル安値を下回り 1 1 7 円割れ寸前の水準まで円買いが進んでしまった。ニューヨーク市場の終盤には 1 1 7 円 6 0 銭台に戻しているが、昨夜は対円だけでなく、対主要通貨全般にわたってのドル安となっている。ニューヨーク市場が始まる前に、ニューヨーク連銀のダドリー総裁が、金融情報サービス MNI 社とのインタビューで、世界経済見通しの悪化や金融環境のひっ迫が続くようなら 3 月の米連邦公開市場委員会（FOMC）で考慮する必要があるとの見解を示したことが、昨日のドル下落の大きな前提になっていたようだ。ドル高の一段の進行が米経済に対して重大な影響を及ぼすとしており、このインタビュー内容が伝わった後、しばらくして発表された 1 月の ISM 非製造業景況指数の悪化にも市場が敏感に反応したようだ。ほぼ予想通りだった米 ADP 雇用統計結果には反応薄だった市場だが、明日の米雇用統計で弱い数字が出てくるようなことがあればもう一段の大きなドル売りになるかも知れない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。